令和８年度　港南中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

１　全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式 （CBT＝Computer Based Testing）で実施。

学年		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）		平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学	(参考)英語３技能
３　年	学校	145	60	59	3.1	7.7	524
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

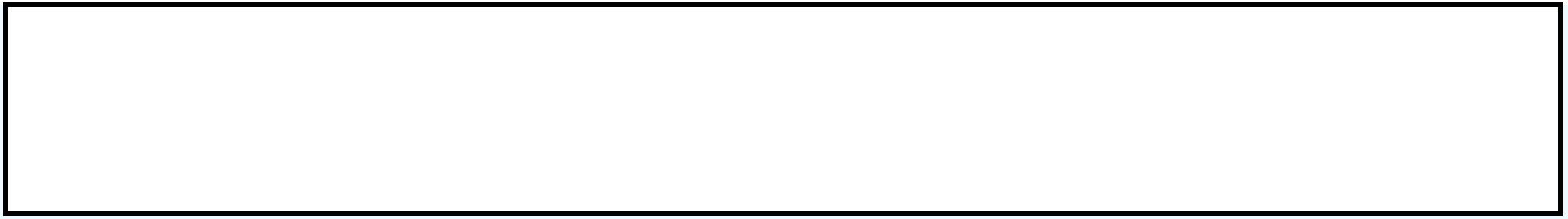
※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
　この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

〇全国学力・学習状況調査
【国語】
１．成果
本校の平均正答数は9.0問／15問（平均正答率60.0%）であった。大阪府（公立）の平均正答率61.0%、全国（公立）の63.9%と比較すると、それぞれ1.0ポイント、3.9ポイント下回る結果となった。また、中央値は9.0問であり、学年全体としては9～11問程度の正答数の生徒が多く見られた。
9～11問正答の生徒が多く、学年全体として基礎的な内容を一定程度身に付けていることが分かる。日常の授業における漢字・語句・文法等の基礎的な学習の積み重ねが、一定の成果につながっていると考えられる。
低得点層についても、全体としては少数である。基礎事項の定着状況を把握し、生徒一人ひとりのつまずきに応じた補充学習を行うことで、学年全体の底上げにつなげることができると考える。
２．課題
14～15問正答の生徒は本校では少なく、府・全国と比較しても上位層の割合が低い。基礎的な知識・技能の定着に加え、複数の情報を関連付けたり、文章中の根拠を基に自分の考えを説明したりする力をさらに育成する必要がある。
３．今後の取組
漢字・語句・文法等について、授業の導入や短時間学習を活用して繰り返し確認し、個々の定着状況に応じた補充学習を行う。
「本文のどこからそう考えたのか」を意識させ、根拠となる叙述に線を引いたり、本文から引用したりする活動を日常的に取り入れる。また、「自分の考え→根拠→理由」の流れで説明する機会を増やす。
複数の情報を比較・関連付ける課題や、条件に沿って記述する課題を取り入れ、知識・技能を活用して自分の考えを表現する力を育成する。
テスト後には誤答の原因を振り返らせ、「知識不足」「読み取り不足」「根拠の捉え方」「記述方法」等に整理し、類題や授業での学び直しにつなげる。
【数学】
１．成果
当日までの取り組みとしては、生徒たちには約１０年分の過去問に取り組ませた。家庭での課題として取り組んだものと授業内で取り組んだものとあるが、授業内では時数の都合上、前半部分の計算問題などに重点を置き、反復させることで誤答を減らすようにした。
学年が変わった当初のテストでもあるので、１・２年生時の復習も兼ねていることを強調しながら学習を進めた。
今年度本校の平均正答数は9.4/16問で、府平均＋0.6ポイント，全国平均＋0.3ポイントであった。正答率換算に直すと59%で、府平均＋4%，全国平均＋2%となり、対外平均を上回ることができた。特に標準偏差を見ると全国よりも0.5小さい数値になっていることから、全体的な学習意欲の向上や得点力の向上がうかがえる考査となった。
２．課題
対外平均を上回ったとはいえ、設問別でみると正答率が低い問題も少なくない。特に思考・判断・表現の観点で設定されている問題（16問中4問）に関しては、その内の３問が対外平均を下回る結果となったことから、考えや計算過程を言葉で表現する力や相手に伝える力については向上の余地があるといえる。
このことから、普段の授業の中でも、与えられた問いに答えるだけでなく、何故それが導き出されたのかを順序だてて整理し、まとめ、説明する能力の向上を図りたい。
【英語】
１．成果【英語３技能】
本校では、基礎的・基本的な英語の知識及び技能について、一定の定着が図られている。特に、平均正答数及びIRT平均スコアが大阪府・全国を上回ったことから、これまでの授業における基礎・基本の定着を意識した取組について、一定の成果があったと考えられる。
また、「聞くこと」「読むこと・書くこと」の両領域において、学習した語句や文法事項を活用して英文の内容を理解する力が身に付いていることがうかがえる。学力層全体としても、中間層までの生徒が比較的安定して力を発揮しており、学習内容の定着が進んでいる。
２．課題【英語３技能】
一方で、今後は基礎的・基本的な知識及び技能の定着に加え、それらを実際のコミュニケーションの場面で活用する力をさらに育成する必要がある。
特に、複数の情報を関連付けて内容を捉えたり、目的や場面に応じて自分の考えや理由を英語で表現したりするなど、思考・判断・表現を伴う課題への対応力を高めることが課題である。
また、一定の力を身に付けている生徒についても、既習事項を組み合わせて活用する発展的な課題に取り組ませることで、上位層のさらなる学力向上を図る必要がある。

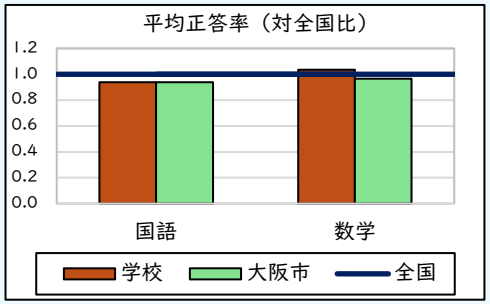
今後に向けて



令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

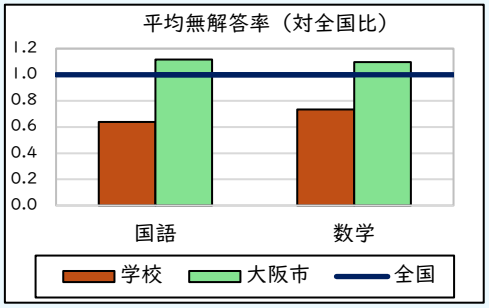
平均正答率（%）

	国語	数学
学校	60	59
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



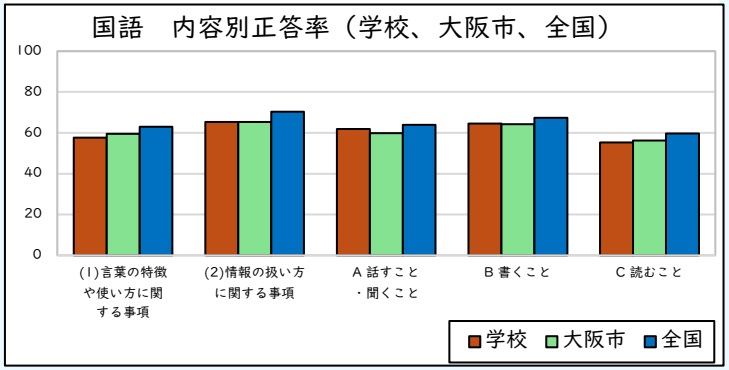
平均無解答率（%）

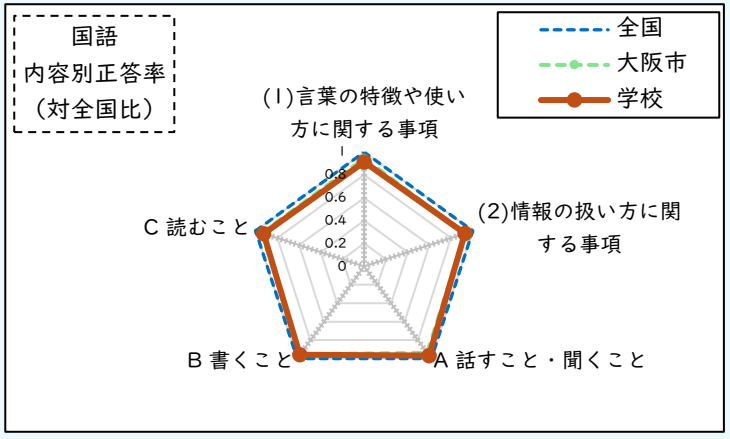
	国語	数学
学校	3.1	7.7
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



【国語】内容別正答率

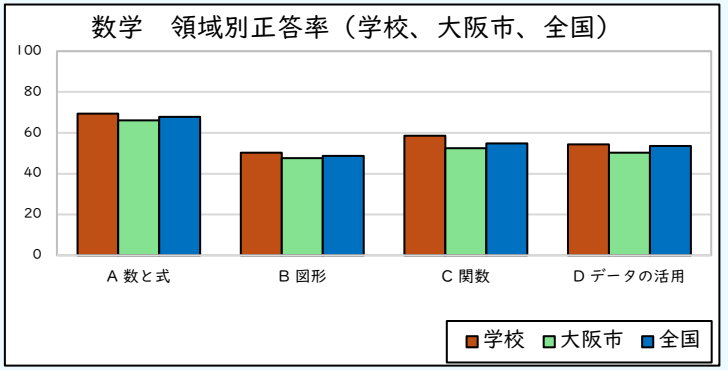
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	57.6	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に関する事項	1	65.3	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	－	－	－
A 話すこと・聞くこと	3	61.8	59.9	63.9
B 書くこと	3	64.6	64.2	67.4
C 読むこと	3	55.3	56.3	59.7

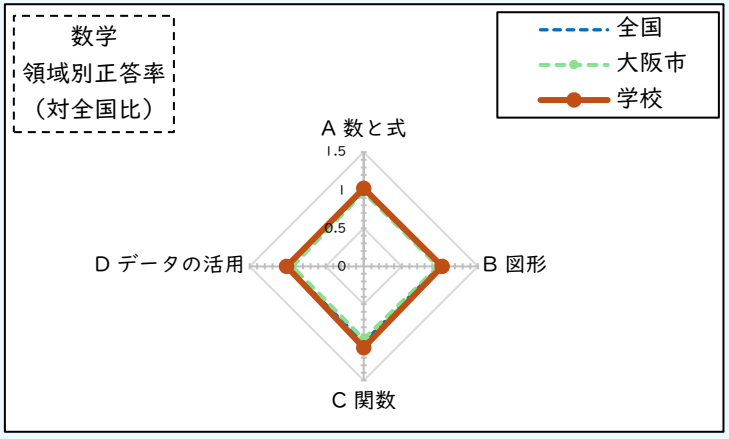




【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と式	5	69.4	66.1	67.8
B 図形	4	50.2	47.6	48.7
C 関数	3	58.6	52.5	54.8
D データの活用	4	54.3	50.2	53.5

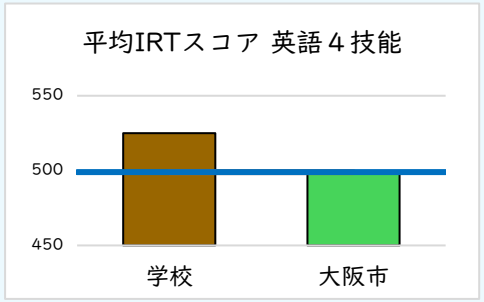




令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（英語）

英語　平均IRTスコア

学校	525（524）
大阪市	499（499）
全国	499（499）



※４技能の平均IRTスコアです

※（　）内は３技能の平均IRTスコアです

【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力に よるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和８年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

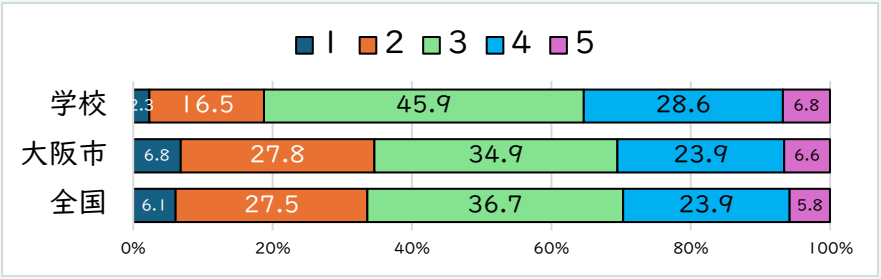
IRTスコアを１～５の５段階に区切ったものです。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなります。

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

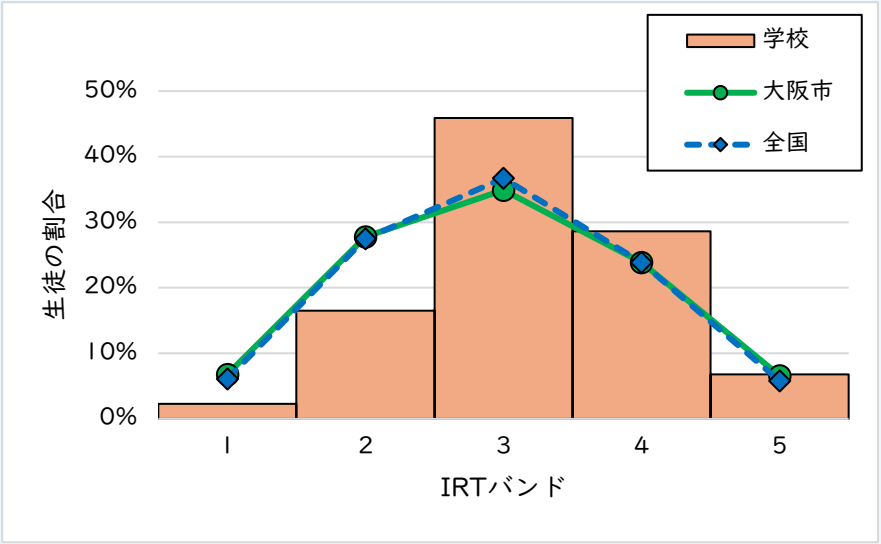
	IRTバンド分布比較（４技能）				
	１	２	３	４	５
学校	2.3	16.5	45.9	28.6	6.8
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※４技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（４技能）



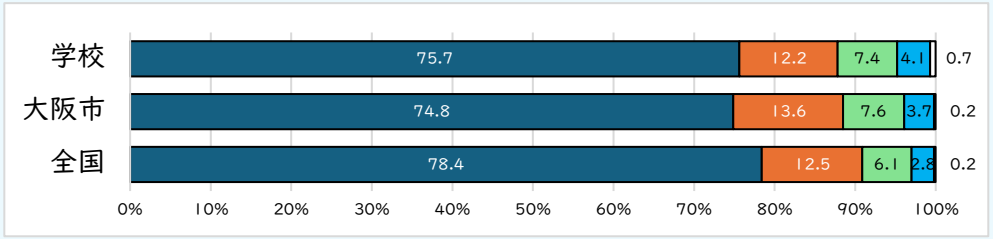
IRTバンド分布グラフ（４技能）

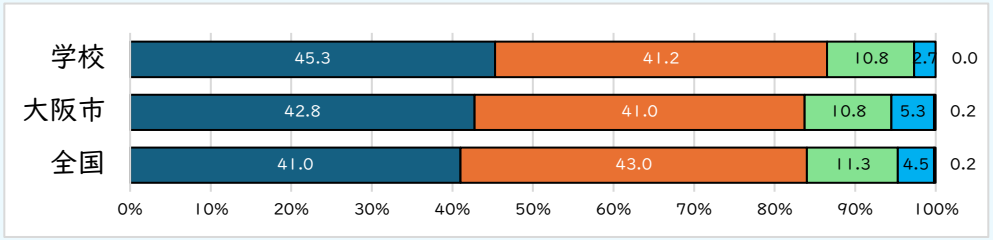


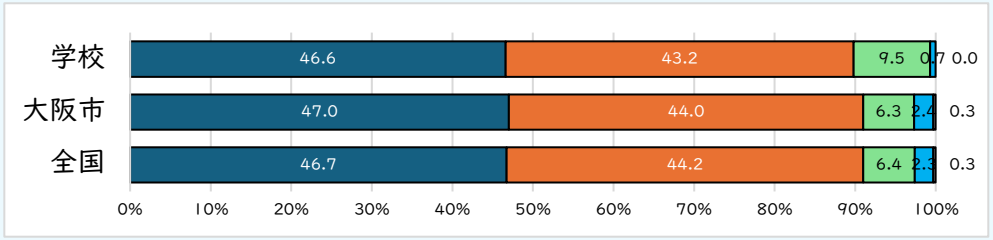
生徒質問調査より（１）

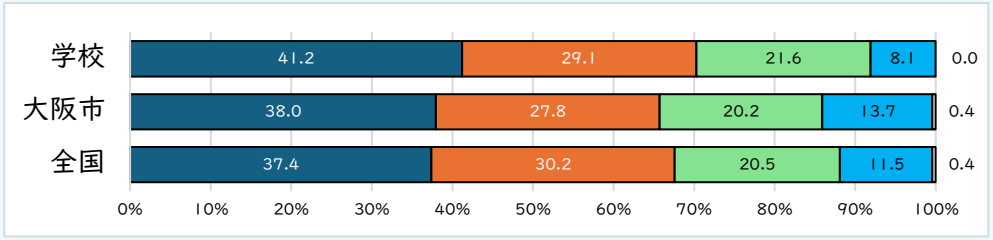
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

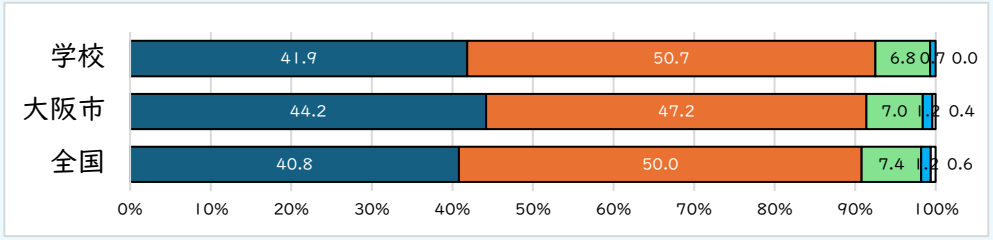
質問番号	質問事項
（１）	朝食を毎日食べていますか
（８）	自分には、よいところがあると思いますか
（９）	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
（１０）	将来の夢や目標を持っていますか
（１１）	人が困っているときは、進んで助けていますか







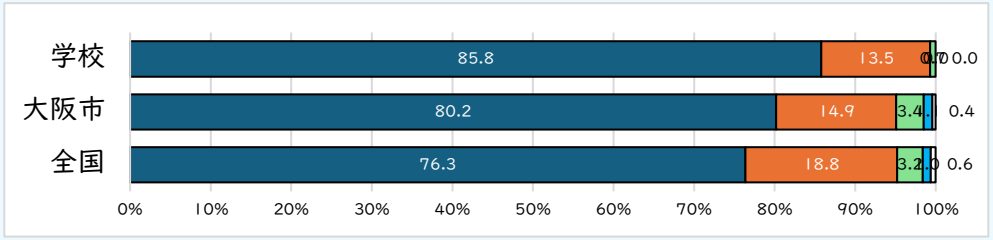




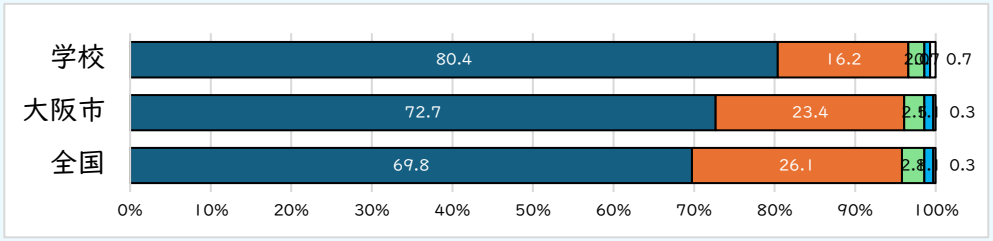
生徒質問調査より（２）

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

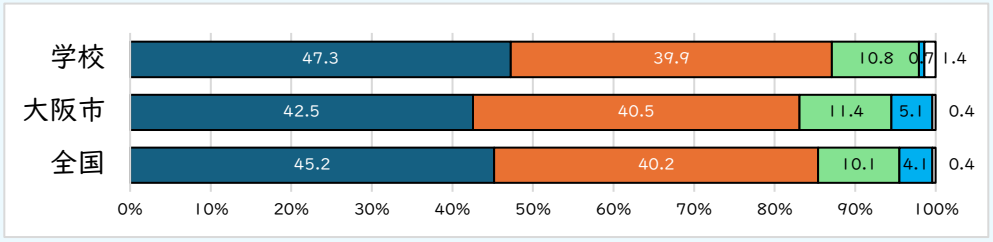
質問番号	質問事項
（１２）	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
（１４）	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
（１５）	学校に行くのは楽しいと思いますか
（２３）	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
（３６－３）	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか



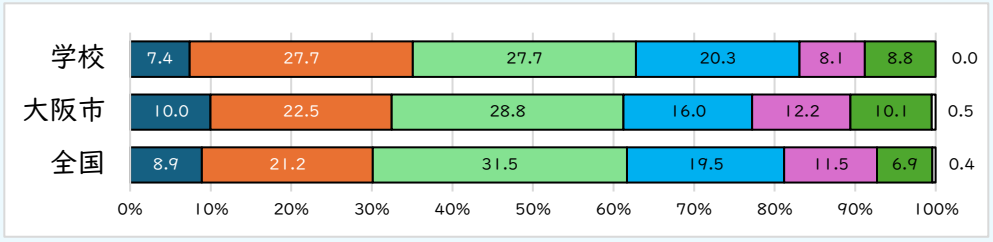
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



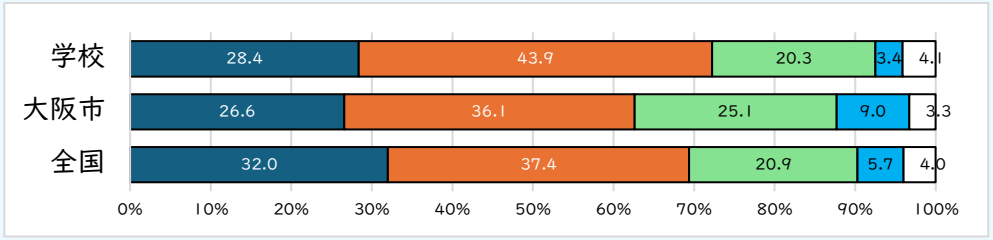
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 ３時間以上
2 ２時間以上、３時間より少ない
3 １時間以上、２時間より少ない
4 ３０分以上、１時間より少ない
5 ３０分より少ない
6 全くしない

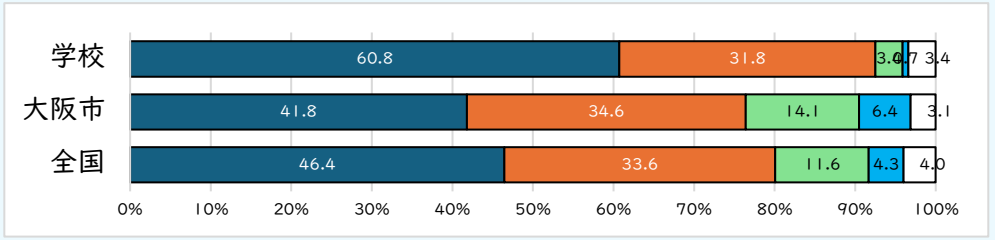


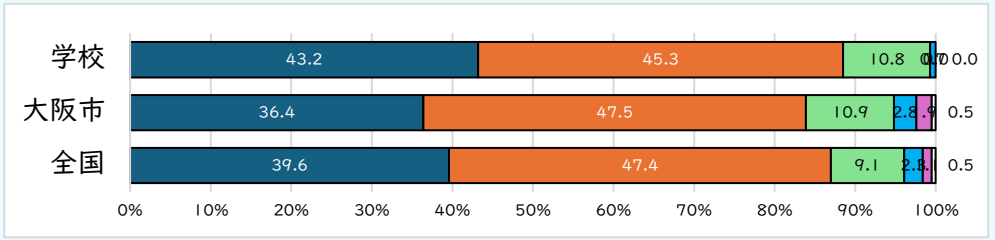
1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

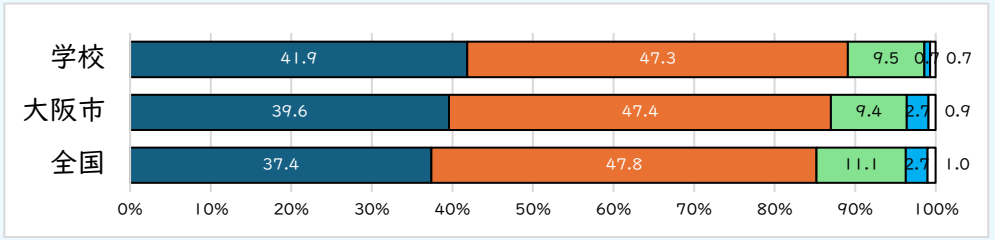
生徒質問調査より（３）

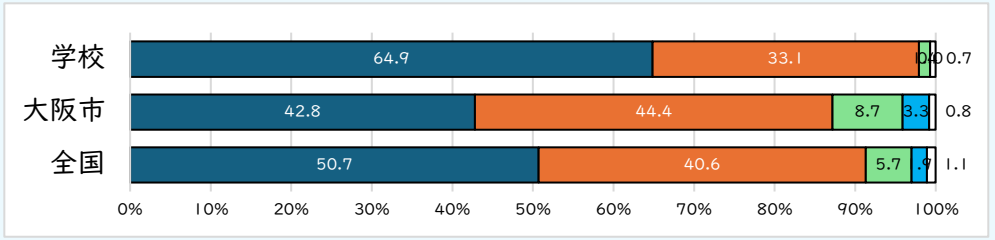
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

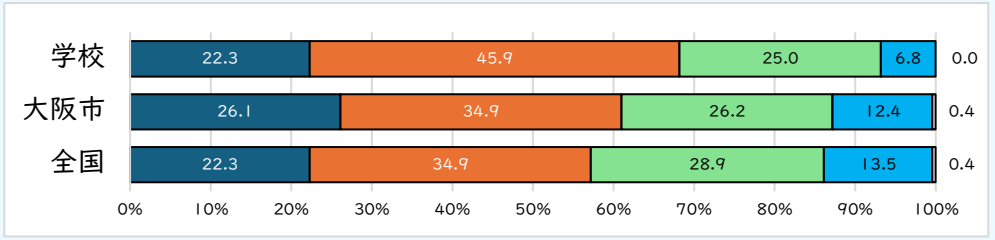
質問番号	質問事項
（36－4）	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか
（42）	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
（45）	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
（51）	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
（53）	国語の勉強は好きですか







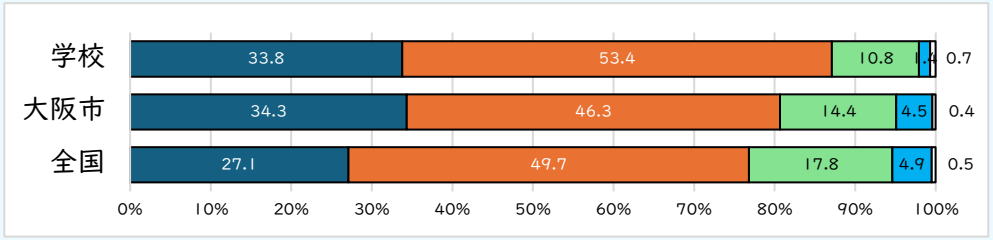


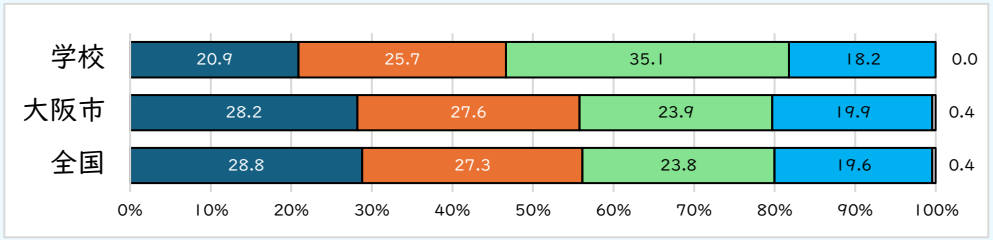


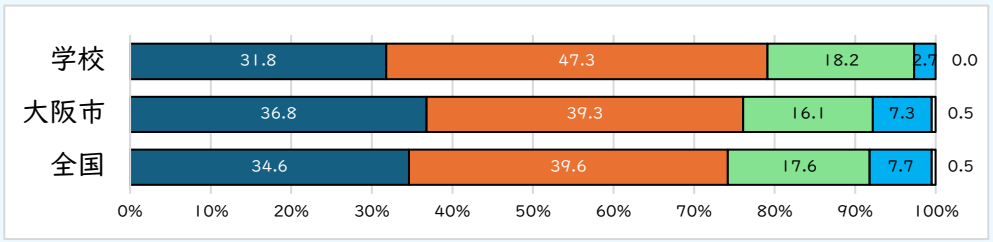
生徒質問調査より（４）

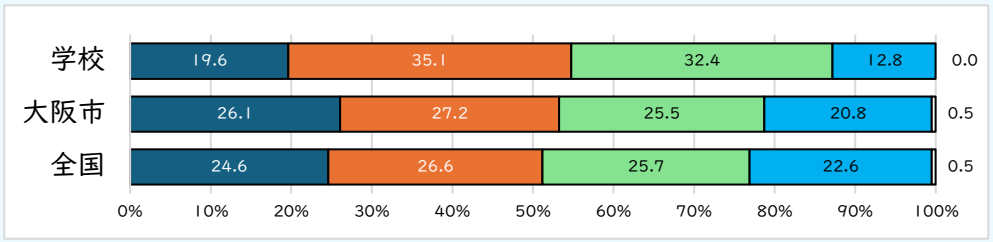
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

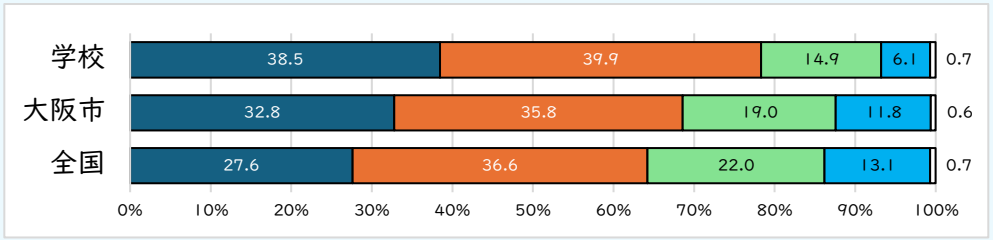
質問番号	質問事項
（５４）	国語の授業の内容はよく分かりますか
（６１）	数学の勉強は好きですか
（６２）	数学の授業の内容はよく分かりますか
（７０）	英語の勉強は好きですか
（７１）	英語の授業の内容はよく分かりますか











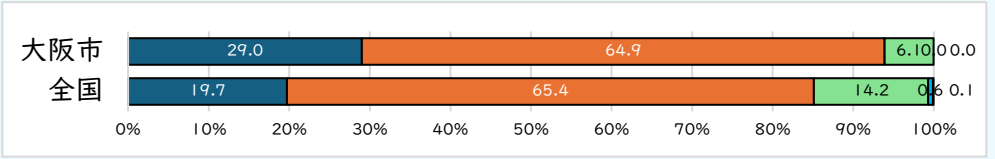
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5
6
7
その他・無回答

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

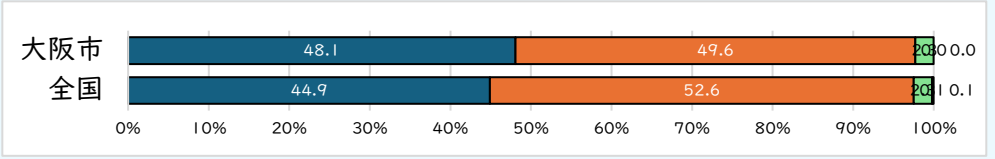
質問番号	質問事項
（7）	調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか
（10）	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行いましたか
（43）	調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか
（76）	ICT機器を活用して各教科等における見方・考え方を働かせるような学習指導を行いましたか
（77）	ICT機器やインターネットの利活用について、目的や場面に応じた適切な使い方や、利活用にあたってのルールやマナー（長時間利用防止や情報の取扱いも含む）に関する指導を行いましたか

【学校の回答】　1　そう思う



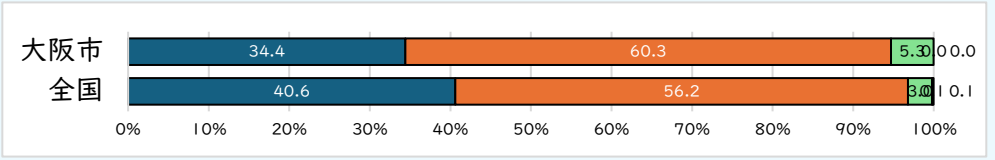
1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

【学校の回答】　1　よく行った



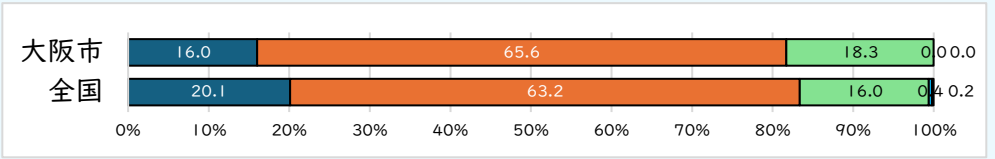
1 よく行った
2 どちらかといえば、行った
3 あまり行わなかった
4 全く行わなかった

【学校の回答】　1　よくしている



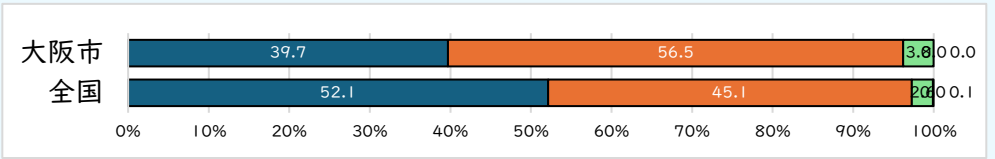
1 よくしている
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない

【学校の回答】　2　どちらかといえば、行った



1 よく行った
2 どちらかといえば、行った
3 あまり行わなかった
4 全く行わなかった

【学校の回答】　1　よく行った



1 よく行った
2 どちらかといえば、行った
3 あまり行わなかった
4 全く行わなかった